

政 濤 新 報

新聞定價 一部 五 錢
廣告料 第一行 四十 錢
福島縣平町白銀町十五番地
發行所 政濤新報社
編輯印刷 武 藤 豊
發行人 武 藤 豊

發 刊 の 辭

新聞のトラスト即ち資本の統一が叫ばれてゐる時、石城の狭い一角から呱呱の聲を揚げた、我が政濤新報の使命は極めて大きなものであります。地方的時事問題についての公正なる批判、地方産業發達獎勵、風教思想の善導等々、即ち尠くも地方人が信頼し得られる正しい方向を指す羅針盤となる事なのであります。此の重大なる使命を果して完全に遂行し得るか否かは未知數ですが、吾々は之れが遂行をなすべく凡ての力を盡すであらう事を今茲に御誓ひする事が出來ます。

昭和三三年七月十五日
政濤新報社
編輯同人

政 濤 春 秋

炭礦の不況、銀行の破綻、農村の疲弊等々、石城郡民は徹底的な經濟受難者となつた。
此の不況から何時になつたら浮び上がる事やら、凡ての人はどうの昔に不景氣には飽きてゐる、でもお先づた事に對して御祝を申し上げる。
太平洋は廣い無限の寶庫だ。漁業家諸君よ、もつと研究し給へ、そして富源の鍵を握る事だ、古い型を忘れるのに遠慮は絶対無用。
大製糸會社の設立決定、郡治家、教育家、實業家等が、於ける橋的養蠶郡となつてゐる。青年が生きてゐるからである。古型の政を離れて、雄辯に物語つてゐるから、私が茲に敢て述べる必要がなく、唯私は何故に青年のみが生きてゐるかもなく結局モジ／＼した代議士があつたやうな石城民政黨の諸君氣を付けなす事だ、足元にね。
造り事ではない、嘘だと思

青 年 禮 讚

福島民友新聞 編輯局長 田子健吉

ふなら聞いて見な、熱海の鐘詰議員中誰と誰が一番黨の幹部から危険視されたか。
石城政友會改造の聲を聞く最高幹部は今少し大衆と接近して、大衆が何を目標と
警城青年同盟會が、更に一段の進出をなし目的遂行ではないと思ふ。
警城青年同盟會の諸君は生きたる。力があつて、熱が短夜のともしびのころ港かな (子規居士)

社 告

新聞らしい新聞を造る爲めに、左の諸氏を編輯顧問に御願しました、顧問各位は何れも期界に於ける權威者です、茲で詳しく言ふ必要はありません、只諸氏の御指導に依つて吾が政濤新報が幾分なりとも感じのよい新聞らしい新聞を造り得る事と思ひます。
尙讀者諸君並に青年同盟會員の便宜を圖る吾が社の微意から石城法曹界の重鎮である。左記兩氏を法律顧問に同様お願致しました。

- 編輯顧問 (イロハ順)
常磐毎日新聞社長 川崎 文治
いはらき新聞支局長 柏木 哲
警城時報編輯長 岡田 弘成
河北新報支局長 横山 顯
福島民報支局長 山田 馨麿

祝 發 刊

警城新聞編輯長 坂本 茂雄
法律顧問 辯護士 眞木 恒
同 千葉 彦治

新 妻 盛
石城郡四倉町

町長 鈴木 榮
福島縣小名濱町

吉 田 正 雄
福島縣江名町

町長 河野 嘉 藏
福島縣江名町

小名濱商事株式會社 小 野 務 平
福島縣小名濱町

小名濱町 小 野 晋 平

縣會議員 山 崎 吉 平

伊 藤 淺之助
石城郡飯野村

躍進を續る 青年同盟會

双葉方部迄進出

綱領の實現を期す

警城青年同盟會は昨年七月上の爲めに機關紙を發行す本郡北部を中心にして創立に至つたが現在同會の中されて以來漸次南進し現在心となつて活躍してゐる幹四倉、大浦、草野、神谷、部は左の如くで會長は前會大野、平窪、平各方部に支長山崎正策氏辭任後欠員中部が設立され更に郡南の中心地植田町隣接郡双葉久之濱町にも支部が設立される氣運にある。

副會長 門馬金次郎 三森 虎雄
支部長 菅波幸太郎 高崎義男、鈴木勇、西山政

漁港實現運動

四倉町に於ける 青年が奮ひ起つ

綱領

一、我等ハ青年ノ思想ヲ善導シ實質剛健ナル精神ト勸儉力行ノ氣風ヲ涵養セシメテ期ス
二、我等ハ青年ノ向上ニ依リ自治體ノ發達及社會改善ノ爲メニ寄與センコトヲ期ス
三、我等ハ青年ノ活動ニ依リ産業ト教育ヲ振興センメ文化ノ發展ヲ圖リ國運ノ伸張ニ貢獻セン事ヲ期ス

本郡に於ける小名濱、江名漁港を完全なるものとすは地方民の猛運動が奏功し否かは四倉町の死活問題で理想的漁港の修築を行ひ小あつて此際何をさし置いて名濱の如きは更に商港の漁港完成の實現を期すべく實現を期して運動を續けてく期成同盟會も生れたが町漁港を修築しないのは勿來漁港完成實現の猛運動をな海岸、豊間方部と四倉町ですべく其の計畫が着々に進豊間村では既に數年前からめられて居る由であるが四猛運動を行ひ其の實現も確倉町全部の町民が之れと同定的なるものと傳へられて様に奮ひ立つて舊い考への程である其の間にあつてに支配され町將來の事を堤の建設をなしたのみで今際に就ての老人を動かす必日迄全町を擧げての運動を要を認めず縣當局を動か加し本郡に於ける此の種團四倉町にとつて消長を支配が町民の輿論となつて一大體に於ける唯一の基礎を持つ程の大問題に對し殆ん種運動を起さざる時と遠い事つてゐると言はれる程である無觀心の状態にあるのをではあるまいと言はれてゐる今回は會員相互の思想向見て非常に憂慮してゐる

政客管見

敵のない 木村清治氏 地方問題の解決に 日夜奔走努力



◎「木村赤銅が出るのではに提灯を持つ事はさける只比佐は苦戦だ」此の言葉は誰にでも好かれると言ふ選舉に精通して居る民政黨誤弊があるかも知れないが員某氏が、曩の總選舉當時兎に角敵の少ない點で石城政友會の公認として木村氏政界の隨一人者である事はが出馬する事に決定した時事實だ
◎美事代議士の榮冠を搥ち此處に追憶したり殊更に於て一度も落選の浮目を言つたのである
◎木村代議士の過去や偉さ得た木村清治氏過去の選舉は此處に追憶したり殊更に於て一度も落選の浮目を言つたのである

味噌をつけた 石城民政黨

個人の問題を黨に 結びつけて押す横車

過般平町に開かれた極左系十五日午後一時から平町で舊勞農黨系分子主催の警銀開催する旨の宣傳をなし官問題批判演説會に於て石城權を黨の力をもつて壓迫せ民政黨の幹部辯護士山野邊んとしたが〇〇〇からの義政、同安藤琢磨、町會議注意に依り此の暴舉は沙汰員吉田五平の三氏は平署にやみとなつた此の問題を民は直ちに幹部會を開き協議あまりに小さな事で單に演説の上猪狩平署長に責任者の説會に於て臨官の取締方針引責辭職を迫る決議文を突に觸れ検束されたと云ふにさつけ町内の各所に人權擁護を強へて黨の問題とすれ護不法檢束問責の演説會を

見た事のない木村清治氏を、ことゝ世人のこれに對尾崎行雄氏は次のやうなこれだけ此の二つの事實だする期待は頗る甚大であつたを言つたさうである
代政治の腐敗と現今政治家の墮落と政黨の醜惡さとの墮落と政黨の醜惡さとの江氏が代議士になつてから人命をも犠牲として獲得しは一月の中二三日しか家た普選の光榮を見ること出た出来なかつたのである。
見よ政友會は政府與黨であるのを見ても如何に地方問題の審議とをわすれ白晝議員の責任を感じて奮闘してゐるがが解る
◎今石城郡民は經濟受難者となつて苦しんで居る此の政友は停會の理由は何と申すか知らぬが第一回の停會は反對黨の議員爭奪の爲前民政黨内閣の放火事件は内相の自決を促す爲であると言つて、大した誤でないと思ふ次に在野第一黨たる民政黨は奈何彼等は現政府の傷の對策を講ずるの誠意な握るべき大政黨でありながら徹頭徹尾自己の主張を通し得ず時に明政會に時に革新黨に或は尾崎、長島の輩に引きづられ甚だしきは國民に引かれて無產黨の議員と握手し彼等の行狀恰も蟬の抜け殻の如く外形のみ大にして小さな蟻に引きづられ逐に彼等の餌となるの類に等しい。

實に民政黨は蟬の抜け殻である。二百十四名と言ふ大きな外殻を持つて居ながら今議會中に成し得た仕事は自黨の議員を鐘詰にし得たこと丈で中空で徒らに昔日の形骸を残すのみである。

山代一味 演説會は骨抜き 舊勞農黨系山代吉宗一派が主催となつて十五日午後七時から平町劇場に於て警銀問題批判第二回演説會を開催しながら山代等は出版法違反として平署で行衛を捜索中だつたので演説會に來ると同時に山代外五名が檢束され演説會は有那無那の中に終了した

青年諸君

第五十五議會は普選實施後最初の議會であつたが爲に公明なる政治の展開を見る

口碑と傳説

夫婦愛の極致
女房の化石

海にとられた夫を
惜しむ妻の哀語

愛の力は偉大なものだ、それだけ其の愛の對照を失つた場合、其の悲しみは深大のものとなる。全生命の力をもつて限りなく愛して居た夫を俄かに失つた妻の概きそれは悲哀の極致であらう。夫を奪つた自然の暴虐を怨み夫の愛の手をしたひ泣き悲しむだ妻が途に石と化したと云ふ悲しき物語りが今は昔の語り草日々の生活に忙しい世人から忘れられて行く。

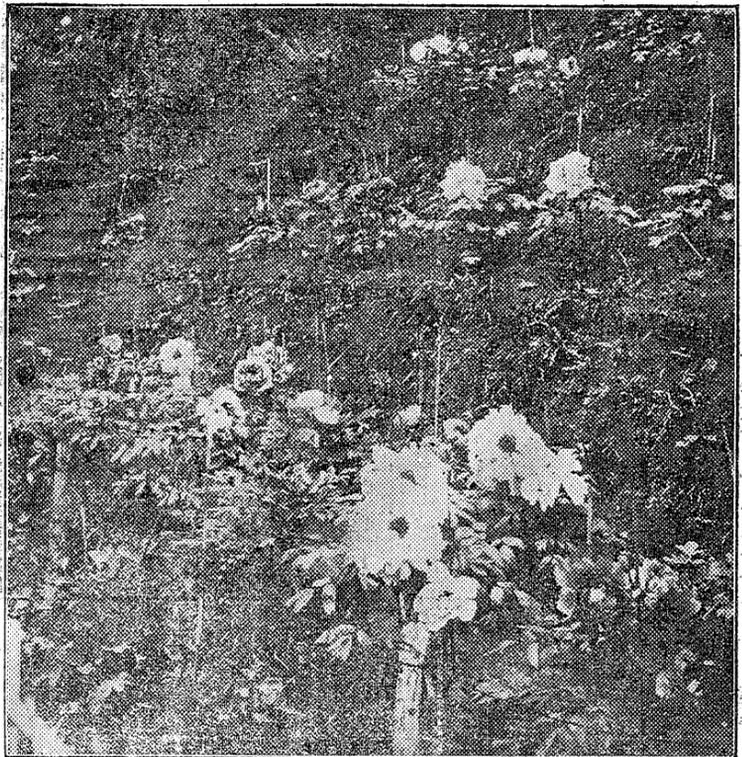
今から數へれば餘程前の事頭の中に若しや夫が押しあである夏井村大字藤間附近に居られるのではなからうかに松川與作と言ふ良き妻をと思つた夫の顔を姿を心を愛しく働いた漁夫が住ん幻に書いて彼女が益々概き下居た、其の夫婦仲の良い悲しんだ。事近所の者を羨まされた程であつた、或る日の事與作は自分で釣道具を作つて舟に乗り漁に出掛けた。遠く女泣き聲を聞かなくなつた。歸らなかつたのであつた。たので不審に思つて其處に妻は、非常に驚いて村人の行つて見た彼女の姿はな手手頼んで其の行衛を捜した。たが見做れない大きな石が皆目不明であつた。與作を飲んだ海は其の妻の悲しみを知らないもの、様に波を織つてゐた。氣も狂はんばかりになつた彼女は神佛に祈願をこめて夫の無事を願つたのであつた。而して夫は遂に其の姿を再び彼女の前に見せなかつた。同海に、山に、温泉に暑さを避ける季節になつて来た、避であうら、本郡は比較的自彼女は涙に雲つた眼で海を暑をなし得ない生活状態の然に恵まれてゐる太平洋に面し山岳を後に控へ其の間見渡し夫の姿を探し求めた人は別として金と暇のあるに幾多の温泉や溪流等の勝

勝地新舞子

三伏の炎暑を

避ける好適地

多分は與作の妻は泣きなが景地が可成に多いが、其のら天を怨み人を怨み凡てを中々でも雄大な勝地として怨み盡して石となつたのでは先づ第一に新舞子に指をあると其の石に同情の涙を折らねばならぬ、曩に東京注いだのである。大乗坊山の日新聞の投票では日本百の山奥太平洋を見渡せる處景に當選し福島縣十景に當選に與作の妻が化したと言ひ投票では福島縣十景に當選傳へられた石がある。そのな勝れた景色を持つ場所であるか解る。



四倉の牡丹園
四倉町如來寺境内にあり、其の西に東本願寺あり、其の東に小松學俊の墓あり、其の南に郡當の唯一の園あり。

今迄あまり知られてゐなかつた此の勝地も芳賀保三郎氏等の奔走と新舞子保勝會等の努力に依つて漸次認められ殊に多數交遊團體の歡待設備も行はれつゝある夏非川から仁井田川に通ずる横川にはランチが浮べられ休憩所等も隨所に出來た。新前に黒船が伊豆の下田に寄港した事の様な騒ぎと賑はしさを呈した。在郷軍人

小名濱に
軍艦入港

見物人で非常な賑ひを呈す

濱三郡艦上簡點呼執行の結果でせう。一や之れはとも、そんな事は君、あは、い、流石の選良もつまらない處で一本喰わされた形。

分會海軍班では之れを好機として海軍思想普及の目的から十四日平町で軍樂隊の演奏會並に活動寫眞會を催した向小名濱町では軍艦の入港は商港實現の前提であるとして乗組員を招待して晩餐會を催した。

張り扇

新任の加勢知事が本郡の初巡視に來た當日話したはまだ古い事ではない。三四の新聞記者に取巻かれて木村代議士、野崎縣會議員が歴代知事の噂話に花を咲かせた時の事。

木村代議士「香坂知事はどうも神經質の處があつたね野崎縣議「僕も大瀧問題では随分怒られたものだ」話がはずんで色の黒かつた點で歴代知事の中の第一人者であつた川淵知事の事に移つた

木村代議士「川淵知事を他の人は民政黨の知事だと言つて悪く言つたものだが僕には大變親切で良かったよ」

懸賞文論募集

「題」

農村救濟策

一 現在の農村に於て當然改善を必要とするべき事柄が多々ある筈です此の改善案並に研究的救濟策の考察を主題として下さい

一 締切日 八月五日

一 懸賞 十圓

一 應募原稿中より佳作二篇を選び一篇五圓の懸賞を附す

一 申込場所 平町白銀町一五
政濤新報社宛
一 審査方法 編輯顧問に一任

政濤新報社

小名濱大敷漁場

福島縣小名濱

縣會議員

古川 傳一

豐間大敷事務所

石城郡豐間村

井上 茂作
平町消防組頭

磐城軌道株式會社

福島縣小名濱町

福島縣湯本町

湯本信用無盡株式會社

電話四七番
振替仙臺七九六四番

星製藥磐城配給所

專務取締役 駒木根 忠三

福島縣平町三丁目

預金の賣買に應じます

取扱ひは親切迅速

株式現物賣買 駒場四郎商店

電話四六五番

磐城共濟會事務所

福島縣平町



醸造元

福島縣平町 山崎合名會社
電話(營業部)一〇番
(醸造工場)長二七番
振替東京一九七五番
上野車坂町四三
東京支店
電話長下合五七二番
振替東京六八三一二番

御心配は御無用です

淋病、消渴、膀胱カタル等の諸症

偉效ある

優秀新藥トリツクス

定價二圓、三圓、五圓
を御試し下さい

特約店 平町五丁目角 山野邊藥局

平藝妓屋組合

合資會社 久之濱大謀網漁場

双葉郡久之濱町

入山採炭株式會社

石城郡湯本町

吉田 保之助

石城郡四倉町

平町料理屋組合

鈴木科醫院
院長 鈴木 正

越乃屋

御料理仕出し
平町三丁目
電話三三〇番

首藤醫院
院長 首藤 慎一

藪 そば

平町字仲田町

平川醫院
院長 平川 喜久也

平業組合

西洋料理

久保田醫院
院長 久保田 真

平、好間乗合
三井自動車部
福島縣小名濱町
海産商
電話六四番

鈴木岱助

中村醫院

小名濱町
院長 中村 三郎

鯨岡 潔

郵便局長
石城郡湯本町

つた安

石城郡湯本町

吹の湯
鑛泉
石城郡湯本町吹谷

湯本寫真部

石城郡湯本町
湯本座前

鈴木自動車部

石城郡湯本町

山口屋

御料理旅館
石城郡江名町
電話六一番

磐城無盡商會

石城郡植田町

久之濱運送會社

久之濱驛前

事務協議會

石城平第二區校長

海水浴 旅館 新

米
福島縣小名濱町
電話八八番

平三業保健組合

双葉郡久之濱
漁業組合

四倉藝屋組合

石城郡四倉町

本田辰吉

剏昆布製造元
常磐線四倉町
電話(ホン)又八(ホ)

新妻安之助

榮屋商店
双葉郡久之濱中町